



インドネシア人実習生がお弁当に持参していた辛みソース Sambal Terasi(サンバルテラシ)

残暑お見舞い申し上げます。暦の上では立秋を過ぎましたが、先月から続く酷暑で実習生の皆さんもさすがに夏バテ気味です。朝の登校指導から放課後の下校指導まで、皆さんと交わす挨拶は「あついですね〜」「そうですね〜」の繰り返しです。今までのところ幸いにも大きく体調を崩す実習生は出てきていませんが、技能実習が始まれば、この炎天下、建設現場や農場等での屋外作業に従事する皆さんも多いので心配でなりません。毎日の授業でも、実習が始まってからの熱中症対策や日々の体調管理の大切さについての指導を指定しているところです。

あじけんスコープ Vol.133 ~初級会話コース受講生が卒業しました~

昨年9月から約1年間当校の初級会話コースを受講してきたハイダルさんが600時間の全課程を修了し、7月29日に卒業しました。コース開始当初は日本語が殆ど話せない状態でしたが、本人の地道な努力の成果が実り、今では講師陣と自然なテンポで雑談が出来るまでになりました。今後は日本語会話を活かして家業の自動車販売の仕事に従事するそうです。ハイダルさんが、身に付けた日本語で大きく羽ばたくことをスタッフ一同願っています！



講習最終日、修了証を手にするハイダルさん

はじめまして、私の名前はハイダルハンザラです。パキスタンから来ました。日本に1年間住んでいます。来ほつて来る前私は日本語がひとこととも話せませんでした。しかし来ほつて600時間勉強した後、私は日本語を話したり書いたりすることができました。来ほつて勉強したのは良かったです。今日本人と話すことができてとても嬉しいです。

今月の実習生

今月はある日の昼食の時間に、比較的手の込んだお弁当を持参してくるベトナム人女子の実習生の中でも一際目立つ「海苔巻きお弁当」を持ってきていた NGUYEN THI THUY NGAN (ガン) さんを紹介します。



笑顔でお弁当を披露してくれたガンさん



はじめまして、わたしはクエンティウイガンと申します。ベトナムから来ました。わたしのしゅゝは、りょうりをやることです。とくににほんのりょうりが好きです。なぜなら、とてもおいしいみがあります。たとえば、「ひときれのさかなは、ひとつのあいさつ、ひとくちのごはん、ひとつのかんしゃ」というとても素敵なことは、をよんだことがあります。わたしはにほんにいるあいだに、にほんのりょうりをたくさんつくってみたいと思います。

あじけん流日本語授業

～相手に合わせた日本語を使ってみよう～

今月のあじけん流日本語授業は、「相手に合わせた日本語を使う」ということを目標にした授業をご紹介します。

まず、実習先でどんな人に会うか考えます(写真①)。「先輩」「社長」「会社の人」「同じ実習生」などの意見が出ました。そこで、その人達にはどんな日本語を使うかを話してもらいました。「～です・～ます」を使う、「普通体」を使うなどの意見があり、頭の中ではよくわかっているようでした。そこで、実際に、ペアになり、毎朝行っている朝の健康チェックの内容を、一人が実習生役、一人が社長役で行いました。しかし、使い分けは難しいようで、気持ちは社長でも、話している言葉は実習生と同じというペアがほとんどでした(写真②)。再度、使い分けについてよく確認し、もう一度練習をしました。2回目は、1回目よりも良くできていました(写真③)。

次に、『感じがいい日本語』レッスン30「飯、食ったか」(写真④)を中心に、誰と誰がどんなところで会話をしているか音声を聞きながら考え(写真⑤)、その違いについても学びました。社長と実習生、友だち同士、実習生同士、職場の先輩と後輩など、「話す相手」を確認しながら、どんな日本語を使ったらいいか、クラスで話し、実際に練習してみました(写真⑥)。

朝、教室に入る時も、実習生同士なら「おはよう」、先生が来たら「おはようございます」とあいさつできるような意識を持ってもらいたいと思い、取り組んでいます。「～です・～ます」と話すことが、実習先でも無難だとは思いますが、少しでも他の人とのいい関係を実習生自らが作っていくために、「相手に合わせた日本語」の使い手になってほしいと思っております。

当校の教育方針である「かわいがってもらえる実習生」になるためにも、学習したことを実践しながら、自らの日本語を磨いていってほしいです。



写真1：どんな人がいるか考えました

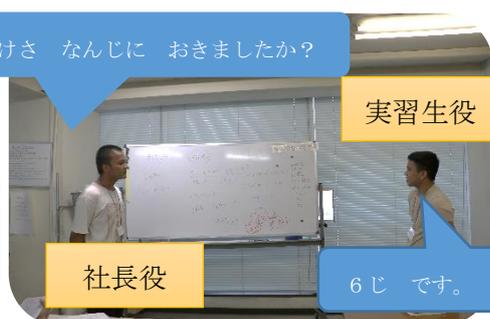


写真2：ペアで練習しましたが…



写真3：少し上達しました

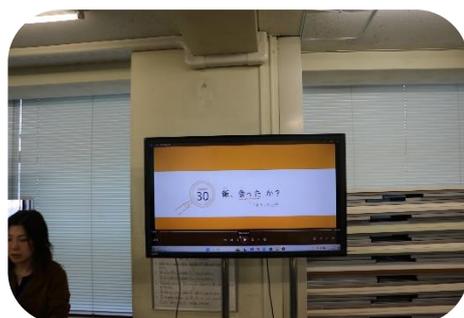


写真4：「感じがいい日本語」レッスン30



写真5：誰と誰の会話か考えます



写真6：いろいろな立場になって練習しました